

# お知らせ

## 年末年始のセキュリティ対策

年末年始の休業期間におきましては、  
情報セキュリティ対策に十分ご注意ください。

- 不要のコンピュータの電源は、休業期間に入る前に確実にオフにしてください。
- 休業期間中、ノート PC などを学外でネットワーク接続される場合は、ウィルス対策を確実にを行い、業務再開後の学内感染の原因とならないようご注意ください。

## センター閉館日のお知らせ

年末年始、総合メディア基盤センターは以下の  
期間について閉館いたします。

● 2008年12月27日～2009年1月4日

- 基幹ネットワーク、各種認証サービス、総合メディア基盤センターの提供する各種 ICT サービスなどについては、停止期間が発生する場合、別途通知いたします。

## ウィルス対策ソフトウェア利用について

総合メディア基盤センターでは、学内各部局、研究室等で使用しているパソコンを対象に、ウィルス対策ソフトウェアの無料提供を行っています。

サービス対象の OS は、Windows と Mac OS X です。パソコンへのウィルス感染を防ぐために、ぜひ積極的にご利用ください。

なお、利用に際しては、教職員番号によるユーザ認証が必要です。

サービス詳細は、下記 URL の Web ページをご覧ください。

<http://www.imc.kanazawa-u.ac.jp/service/antivirus/>



## 金沢大学 総合メディア基盤センター

Information Media Center of Kanazawa University

〒920-1192 石川県金沢市角間町 TEL 076-234-6910 FAX 076-234-6918  
jimu@imc.kanazawa-u.ac.jp  
<http://www.imc.kanazawa-u.ac.jp>

info. CorePRESS のバックナンバーは総合メディア基盤センターWebサイト  
<http://www.imc.kanazawa-u.ac.jp/info/publication/>からご覧いただけます。

# info. Core PRESS 2008 12 December

報 告

UPKI 認証連携に向けた取り組み  
FD・ICT 講習会の開催  
Excelからデータベースへ

- 年末年始のセキュリティ対策
- センター閉館日のお知らせ
- ウィルス対策ソフトウェア利用について

金沢大学総合メディア基盤センター  
情報誌

# UPKI 認証連携に向けた取り組み

## UPKI

UPKI は、国立情報学研究所が取り組んでいる全国大学共同電子認証基盤構築事業 (University Public Key Infrastructure) の略称で、大学の枠を超えた電子認証基盤の構築を目的としています。UPKI では平成 20 年 7 月より「UPKI シングルサインオン実証試験」を全国的な取り組み実施しており本学においても総合メディア基盤センターと事務局が連携して、これに参加しています。

## シングルサインオン

シングルサインオンとは Web アプリケーション等を使用する際、一度のユーザ認証で複数のアプリケーションを使用する事のできる仕組みの事で、今回の実験においては各大学の管理する ID によるユーザ認証で、他の大学のサービスも利用できる仕組みを構築し、その動作を検証する事を目標にしています。

シングルサインオンの機構は、下記の2つのサービスからなります。

### IdP ( ID プロバイダ ) と SP ( サービスプロバイダ )

実際に利用する Web アプリケーション等を提供するのが SP です。IdP は SP の提供するサービスの利用可否に関わる認証・認可の情報と、認証機能を有します。SP は原則としてユーザ認証に必要な情報は保有せず、IdP の認証結果と認可情報に基づき、サービス利用の可否を判断します。UPKI の場合、この他に UPKI-Fed (UPKI 認証連携基盤) が存在し、ここでは各機関の IdP についての情報を一括して保有しています。

## UPKI シングルサインオン

ユーザが UPKI シングルサインオンに対応した SP 上の Web アプリケーション等にアクセスすると画面が自動的に UPKI-Fed のものに切り替わり、ユーザはその画面で自分が ID を保有する IdP を選択します。そして、IdP の認証画面で ID、パスワードによる認証に成功すると、画面が自動的に最初にアクセスしたアプリケーションのものになります。この動作は最初の1回だけで、一定時間が経過するか Web ブラウザを閉じるまでは認証は有効なままとなり、アプリケーションへの直接アクセスが可能な状態が維持されます。

## 積極的に活用

この取り組みはまだ実験段階ですが、本格稼働後の活用方法を検討すると共に、実験を通して得られた知見については学内認証基盤に対し積極的に活用していくつもりです。

# FD・ICT 講習会の開催

情報教育部門では、FD・ICT 教育推進室と連携し、2009 年夏休みにアカンサスポータル授業活用例を紹介する講習会を以下の様に開催しました。今後も継続して開催する予定ですので、ご興味のある方は是非参加をお願いします。

### 第1回目 日時：8月29日(金) 13:00～14:30

講師：人間社会研究域 古畑 徹教授

タイトル：「アカンサスポータル授業活用例 -

だ PC 活用講座の場合 -」

概要：1 年生前期必修の導入科目「大学・社会生活論」は、アカンサスポータルなしには成立しがたい授業といえる。当初から、学生への連絡やレポート提出だけでなく、授業をビデオ撮りして欠席学生の補習や保留学生の補講に使ってきた。特に保留学生を次学期に指導する際には、大いに威力を発揮してきた。さらに、今年度からはその活用の範囲を拡大し、eラーニングのビデオ授業や期末試験なども導入した。

### 第2回目 日時：9月19日(金) 13:00～14:30

講師：総合メディア基盤センター 松本豊司准教授

タイトル：「アカンサスポータル授業活用例 -

一歩進んだ PC 活用講座の場合 -」

概要：この授業は、IT リテラシーを教え、それを生かしたグループ課題を後半に設定していることに特徴がある。グループ課題を始める際に、学生に評価項目を示し、学生と教員がこれを共有することにより、迷いなく目的に向かって作業できるように工夫をしている。また、課題発表では、学生間で相互に評価する試みを取り入れて、互いに良いところを理解させる取り組みを行なっている。

### 第3回目 日時：9月26日(金) 13:00～14:30

講師：総合メディア基盤センター 佐藤正英准教授

タイトル：「アカンサスポータル授業活用例 -

情報処理基礎の場合 -」

概要：平成20年度より、従来のポータルの機能を強化したアカンサスポータルが新たに動き出している。本講演では、全一年生を対象として前期に行われる情報処理基礎のうち、特に「情報倫理とネットワークセキュリティ」の部分の授業において、アカンサスポータルを利用することで、どのように効率化をはかっているかを紹介する。

連載  
第9回

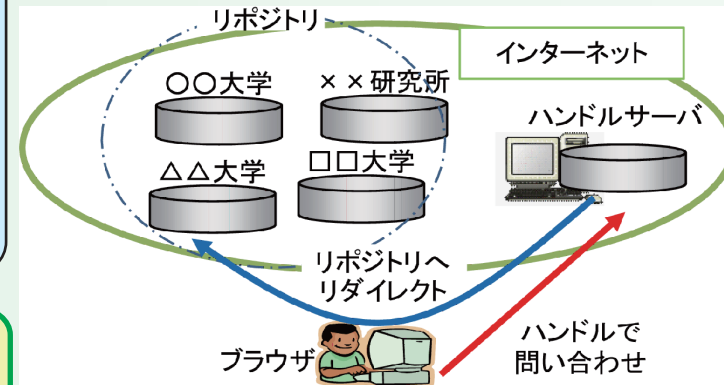
# Excel からデータベースへ

## Part 2 データベースの活用

### データベースの活用例 その6

前回(第8回)は、デジタル学術情報リポジトリの適用例としてアジア画像集成を紹介しました。今回はリポジトリへのコンテンツ登録が、研究成果の情報発信にもたらす効用について説明します。

リポジトリに登録した個々のコンテンツには、「ハンドル」と呼ばれる ID が付与されます。この ID は、世界で一いつ永続的に与えられるため、ハンドルを指定すれば世界中から特定のコンテンツにアクセスできるのです。以下に、その仕組みを示します。



### ハンドルシステム

試しに KURA(<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/>)のコンテンツのひとつを閲覧してみましょう。」ブラウザには次のような URL が示されるはずですが。

<http://hdl.handle.net/> [prefix] / [suffix]

これが「ハンドル」です。ここで prefix はリポジトリ毎に決まった固定 ID で、たとえば KURA は 2297 と決まっています。suffix はそのリポジトリ内に登録されたコンテンツ毎の固定 ID です。具体的には次のようになります。 <http://hdl.handle.net/2297/7031>

ブラウザ上でハンドルを指定すると、ハンドルサーバを介して自動的に該当コンテンツが表示されます(図参照)。この仕組みにより、たとえリポジトリサーバが移転しても、リンク切れの心配がなくなります。すなわち、一旦リポジトリに登録された学術資料は、ハンドルを指定することで一意に特定できるだけでなく、永続的なアクセスが保証されるので、参考文献や引用元としてハンドルを記載する、などの活用も可能となります。